



第9回上田八木・金融政策サーベイ(2017年1月)の結果について

～大勢は政策変更なしの見方。10年国債金利予想DIは調査開始以来の大幅な上昇。

発表日：2017年1月27日(金)

上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 市場関係者の大勢(99%)は来週初のMPMの政策変更なしとの見方。
- 3か月先の金利見通し(「上昇」-「低下」構成比(%))については、無担保コールON金利DIが+4(前回+7)と若干の低下、一方、10年国債金利予想DIは+24と調査開始以来の大幅な上昇となった。この間、2年国債金予想DIは前回と同じ+25。
- 金融緩和からの「出口開始時期」は、「1年以上3年未満」の見方が58%と前回(51%)より増加。

【調査の概要】

調査方法	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(200先)
調査方法	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2017年1月24日～26日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	95.5% (回答者数191先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

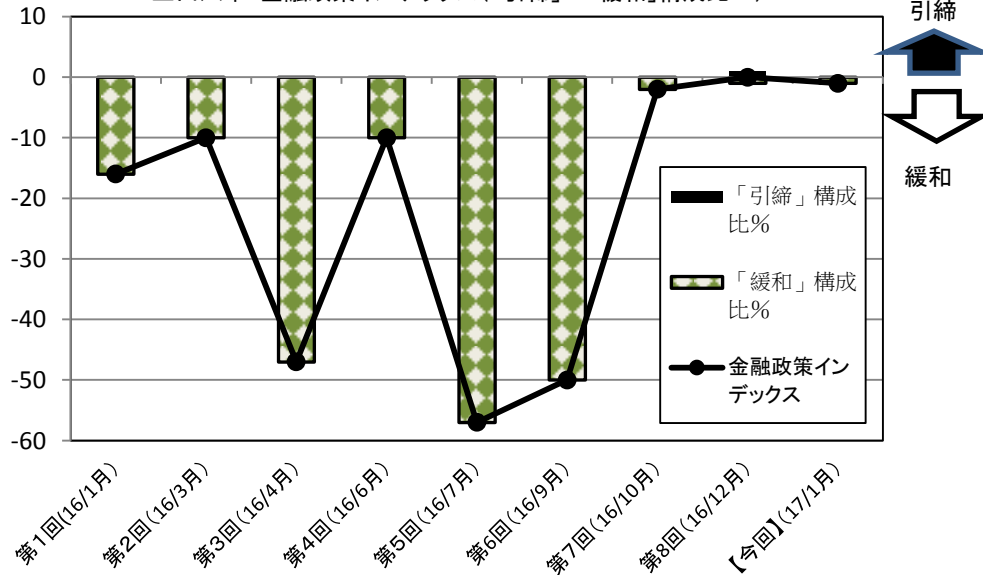
(Q1)日本銀行の次回の金融政策決定会合(1月30日～1月31日)における決定について

回答者全体の99%が「不変」とみていて、「緩和」とみる先は1%だった。「引締」を予想する先はなかった。

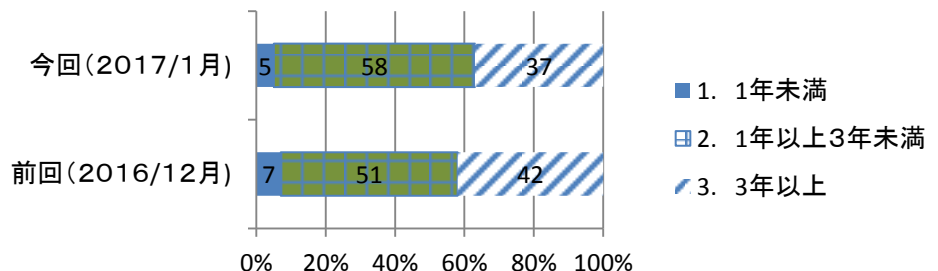
上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、▲1(前回は0)だった。

前回(12月調査)との比較では、「緩和」とみる先は前回と同じ。「不変」とみる先が+1%ポイント(前回98%→今回99%)。「引締」とみる先が▲1%ポイント(前回1%→今回0%)。

(構成比 %) 上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)



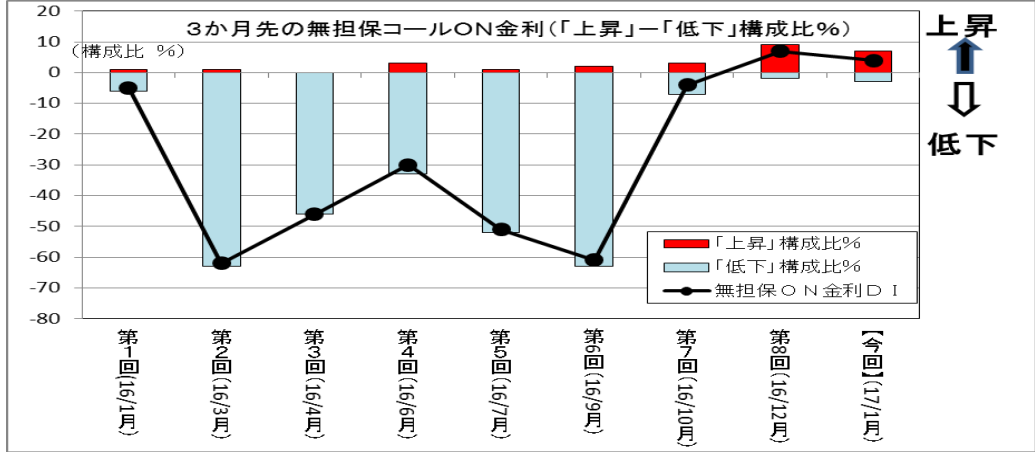
【前回からの追加質問: Q5】現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は？



(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の90%が「不変」と予想。3%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は7%だった。

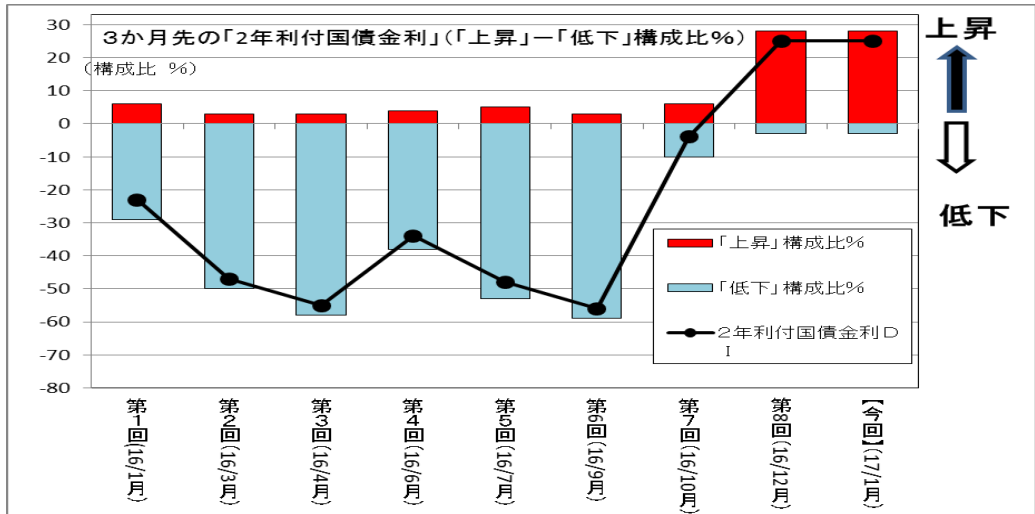
前回との比較では、「低下」とみる先は+1%ポイント(前回2%→今回3%)。「不変」とみる先が+1%ポイント(前回89%→今回90%)。「上昇」とみる先が▲2%ポイント(前回9%→今回7%)。



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の69%が「不変」を予想。3%が「低下」。「上昇」を予想した先は28%であった。

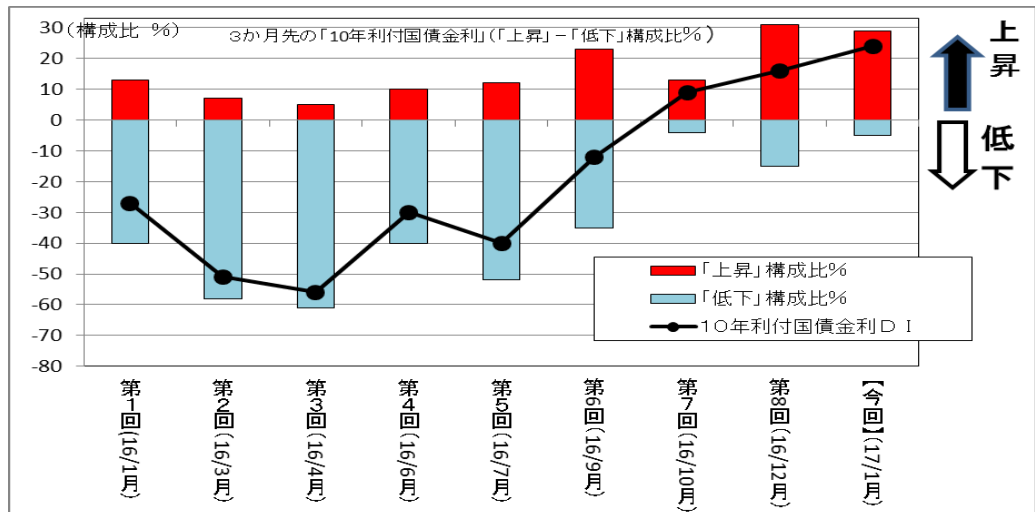
前回との比較では、すべて前回と同じ比率だった。



(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の66%が「不変」を予想。5%が「不変」、「上昇」を予想した先は29%。この結果、DIは過去最大(+24)。

前回との比較では、「低下」とみる先が▲10%ポイント(前回15%→今回5%)。「不変」とみる先は+12%ポイント(前回54%→今回66%)。「上昇」とみる先は▲2%ポイント(前回31%→今回29%)。



【本調査に関する照会先】
企画部 島本、酒井 (電話 03-3272-0293)